

- 日 時：2019年9月1日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題：「御言葉を行う人になりなさい」
- 聖 書：旧約 アモス書 5：18-24（p1435）  
新約 ヤコブの手紙 1：19-27（p422）
- 讚美歌：7「ほめたたえよ、力強き主を」463「わが行くみち」

お早うございます。

夜になると虫の鳴く声が聞こえるようになりました。

秋の訪れです。

朝夕に吹く風も、確かな秋の訪れを感じるようになりました。

昼間はまだ暑いですが、それでも、確かに季節は移ろいで行きます。

その一方で、九州北部を襲った記録的な大雨による被害が伝えられ、心が曇ります。

被災された方々が、一日も早く立ち直ることが出来ることを祈ります。

先週1週間は、日曜日から始まり、毎日が新しい出来事との出会いの日々でした。

説教題の「御言葉を行う人になりなさい」に関連し、その事を少しお話ししたいと思いません。

先週の日曜日は、仙台と福島の子の教会の礼拝に出席しました。

午前中は、単立のバプテスト仙台南教会、午後は、日本基督教団小高伝道所です。

3・11から8年の歳月が過ぎ、仙台南教会は震災の影響は全く感じられませんでした。小高伝道所は、会堂は新しくなったものの、隣接する保育園は震災時そのままの姿を留めていました。職員室の時計も、震災が襲った午後2時46分を指したままで止まっています。管轄する東北教区の方針でしょうか、出来るだけ原形を留めて置きたいとのことでした。

小高伝道所の教会員はわずか一人です。しかも原発による帰還困難区域が解除された地区で、これからどうするかを思う時、教団からこの教会に責任を持つ主任担任教師が与えられなければならないとの感を深くしました。年配の女性の教会員の方は、それでも会堂を始め、周囲の環境を綺麗にされていました。礼拝は近隣からの10数名の参加者によって行われ、帰りは福島駅までの1時間半の道のりを車で送っていただきました。

午前中出席したバプテスト仙台南教会は、どの教派にも属さない単立の教会です。私たちより一回り小さい教会ですが、牧師は3人います。専任牧師は1人、後の2人の牧師の内1人は大学で教え、あと1人はNPO法人の理事長をしています。

実は彼ら3人は、私が同窓会長を務めている大井バプテスト教会附属あけぼの幼稚園の

同級生で、同じ幼稚園の同じクラスから 3 人も牧師が出たこと自体驚きですが、それだけでなく、50 代となった今も、同じ教会で福音伝道の業に従事しています。神様が彼らを同じ場所に呼び集め、伝道の業に従事させているのです。

神様が彼らに与えた使命とは何でしょうか。

3 組の夫婦ともども、仙台にて、何をしているのでしょうか。

それは、夜、夜回りをしながらホームレスの人々を尋ね歩き、彼らに寄り添い、再び生きる力と希望を与える働きでした。礼拝堂は 2 階で、1 階は事務室ですが、事務室の奥にはホームレスの方々への生活支援物資が天井に届くほど山のように積まれていました。

私より一回り若い世代の牧師たちが、3 人も、それぞれの妻と共に、仙台の南の教会を拠点に、最も困難な社会の隅に追いやられているホームレスの人々と共に生きている姿を目の当たりにした時、今日の説教題でもある「御言葉を行う人になりなさい」との言葉が心に響くのです。

神様から与えられた使命を生きる 3 組の牧師夫妻のホームレス支援の働きにしても、又お一人で忠実な信徒として被災した教会に仕え続けている方にも、今御言葉に生きている人々の証しを知らされるのです。

それでは、今朝与えられた聖書の御言葉を見てまいりましょう。

私が選ぶ聖書箇所は、日本基督教団発行の聖書日課に従って、そのまま選んでいるのですが、前回の私のメッセージの時と同じに、まるで自分に対して、そして私たちに対して直接言われているような感が致します。それだけ、キリスト教の教会が出来た当時から、ここで述べられている問題はわたしが抱え続けている問題であるのだと思います。別の表現をすれば、ヤコブが指摘しているこの問題から自由である人はいないのです。

19 節です。

19：わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。

紀元 1 世紀のユダヤ社会で言われていた一種の格言を引用しての警告です。人の言うことにはしっかり耳を傾け、しかし、言葉を発するのには出来る限り慎重でありなさいとの戒めです。さらに、感情に任せて怒ってはならない。たとえ、自分を傷つける言葉を他人から投げつけられたとしても、感情を抑え、耐え忍ぶことの大切さを説いています。

なぜなら、20 節です。

20：人の怒りは神の義を実現しないからです。

この言葉から明らかになることがあります。

ヤコブは、キリスト者の務めが神の義を実現することであると考えていることです。神の義を実現するとは、神様が自分に備えられた道を見つけ出し、その道を神様に導かれるままに歩むことです。ところが、怒りは、神様の道を見出す霊的な眼差しを曇らせ、感情で覆ってしまうのです。ですから、怒りは、神の義を実現するどころか、備えられた道を逸脱させてしまうのです。

21節、

21：だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

キリスト者の務めである神の義を実現するために必要なのは、「あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れ」ることです。この御言葉こそ、神の義を実現する導き手であり、魂、即ちその人の命を救う力を神様から与えられています。ですから、キリスト者の務めである神の義を実現するために、

22節の前半です。

22a：御言葉を行う人になりなさい。

とヤコブは呼びかけます。

しかも、

22b：自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。

と言うのです。

しかし、なぜヤコブはここで、聞くだけで終わるなら、それは自分を欺くことだと言っているのでしょうか。そこにはヤコブの確信があります。即ち、人は、創造の時から、神様の言葉を心に刻まれていると言う確信です。

聞くとは、自分の心に刻まれた神様の言葉を思い起こすことであり、思い起こした御言葉に従って歩み始めること、それが神の義を実現することなのです。

23節です。

23：御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。

生まれつきの顔、それは、心に刻まれた神様の言葉と、その言葉を覆う人間の欲望の二つを持っている顔です。

24節。

24：鏡に映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようであったか、すぐに忘れてしまいます。

その時に、ただ眺めるだけで、何の実践も伴わない時、欲望を心の内に持つ現実の姿や、自分には神様の言葉が心に刻まれているあるべき姿も忘れ去られて行くと言うのです。

しかし、25節、

25：しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れ

てしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。神様の言葉を心に思い起こし、御言葉に従って行動を起こし、歩む時、そのような人はその行いによって幸せになる、即ち神様の義を実現する者となります。

このように言った後、ヤコブはキリスト者の信仰について語ります。

26 : 自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の心を欺くならば、そのような人の信心は無意味です。

そして、目指すべきキリスト者の姿とその信仰を語ります。

27 : みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です。と。

神様から呼び集められ、この教会に集い、交わりを持つ私たちは、誰一人として完全な者はいません。私はもちろんのこと、皆、何か欠けたる器です。しかし、その欠けたる器を神様は呼び集め、この教会を用いて、福音伝道の業を成そうとしています。

立川教会のホームページを検索してみてください。8月19日(月)から昨日にかけて、実際に私たちの教会のホームページを開いた方の数が載っていますが、13日間で500名を超える方々が見ています。一日平均約40名です。

正直に言って驚きました。そして、ホームページをさらに充実させていかなければと思いましたが。礼拝などは勿論のこと、料理教室や歌の集いなどの諸集会、さらにはバザーやクリスマス・コンサートなど、いよいよ、これまで以上に対外的に教会の扉を力強く開く時が来たように思います。そのためにも、まず、今いる私たちが、どれだけ豊かな交わりを創り出し、新しく来る方を迎え入れる準備が出来るか、神様から厳しく問われているのを覚えるのです。

どの御言葉でも良い、一つ選び、今週は選んだ御言葉を行う日々を送ろうではありませんか。祈りましょう。